

## 交通事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン 該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R2)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
安全で 信頼される 公共交通 1	(1) 安全性の 向上 (P28)	① 施設の 計画的な 改良・更新	電車停留場安全地帯へのスロープ設置、電路の改良、軌道の改良、軌道分岐器の更新などを実施しました。 (軌道改良延長 L=668.4m/4年)	B	湯の川温泉停留場は湯川温泉のホテル街とアリーナ利用者が乗降するため比較的用户が多いと思われ、バリアフリーの対策について改善を願っていました。ようやく高齢者にも利用しやすい安全性が向上したと感じる。全国からみるとまだ遅れているとは思いますが着実性は感じる。  これまでの取り組みについては、電停の改修やICAS nimoca導入、接客マナーの向上、混雑状況の公表など信頼される公共交通として、スピード感をもって対応していただき、十分な成果を上げていると思います。	停留場の改修など利用者の安全性の向上につきましては、道路管理者および警察や地域住民の協力を得ながら協議を行い、可能な限り速やかな改良工事に努めるほか、利便性向上のための各種施策に関しても、引き続き対応してまいります。
		④ 軌道内電車 優先運行に ついての 啓発強化	関係機関への啓発リーフレット配布や広報活動を実施するなど、軌道内電車優先運行についての啓発に努めました。	B	一人のドライバーとして、電車軌道の出入りでマナーの重要性や悪天候の際等の安全性に不安を思うことがある。啓発強化は安全向上の上で継続すべきものと強く感じる。	軌道内電車優先運行につきましては、リーフレットの配布等を通じ広報活動を実施しておりますが、ドライバーに浸透するまでには継続した取り組みが必要となることから、今後も引き続き啓発強化に努めてまいります。
便利で快適な 輸送サービスの 提供 2	(1) 快適性の 向上 (P30)	① 車両の改良・ 更新	10両の車体改良を実施しました。	B	古い車両についても更新・改良しているのが嬉しい。街並みの景観に合うのもそうだが、走っているのに出会うと嬉しくなる。そういう人は少なくないと思うので、毎年同じことを記載しているが古い車両活用を今後もお願いしたい。	現在、古い車両形式として500形1両・710形6両・800形1両が現存しており、通常の運行のほか、貸切でのご要望もいただいております。 こうしたなか、古い車両のファンも多く、動態保存を求める声もありますことから、車体の維持や部品調達が困難な状況ではありますが、今後も工夫しながら、維持に努めてまいります。
		② 職員の 接客マナー の向上	接客研修を実施したほか、インバウンド接客研修会に参加するなど、接客マナーの向上に向けた取り組みを進めました。	B	忘れ物の照会への対応など、職員の方の対応が目に見えて改善しているように感じます。  乗務員さんの接客向上が、ここ数年で一番大きい成果だと思います。観光地の公共交通として、最前線に立つ乗務員さんの存在はとて大きいので、是非、継続してほしいと思います。また、情報化の進展に伴い広告に関する意識やとらえ方も変化しているように感じます。選択の余地なく耳に入る車内放送広告は、位置づけが変化しているのではと思います。	乗務員につきましては、今後も研修等を通じ接客面の向上を図るための取り組みを進めていくほか、インバウンド対応等のソフト面の強化に積極的に取り組んでまいります。 また、車内放送広告につきましては、利用者の意識も多種多様化しているなか、情報発信における一つのツールとして捉えているところであり、ご理解いただきたいと考えております。

## 交通事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン 該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R2)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
2 便利で快適な 輸送サービスの 提供	(2) 利便性の 向上 (P31)	① 情報発信の 強化	電車内の液晶ディスプレイを利用した情報発信を実施したほか、車内放送の多言語化の充実を図るなど、情報発信の強化に努めました。	B	<p>運行状況のデータ提供は面白い試みと思います。鉄道愛好家の趣味人の楽しみだけに終わらないよう、広報に努めてはいかがですか。</p> <p>既に一部で導入されていますが、デジタルサイネージを主要電停に設置し、遅延・運休情報、災害情報などをリアルタイムで提供することを検討できないかと思います。</p>	<p>運行状況のデータ提供につきましては、グーグルマップでのルート検索がより便利になるなど、利便性の向上に努めてまいりましたが、今後は、これらの広報について積極的に取り組んでまいります。</p> <p>デジタルサイネージの導入につきましては、利用者に向けたサービスの向上が図れる情報媒体として注目しておりますが、システム利用料、維持費の負担が大きく、その費用の捻出が困難な状況にあることから、現状において積極的な導入は難しいものと考えており、引き続き低コストな仕組みでの情報提供方法を検討してまいります。</p> <p>なお、現在、五稜郭公園前電停に設置している機器は、通信費などのランニングコストを極端に抑えた仕様としているため、リアルタイムでの情報発信には対応していない設備となっております。</p>
		② ICカード システムの 活用	IC定期券の運用を開始し、更なる利便性の向上を図りました。(ICAS-nimocaカード 令和2年度末発行枚数 95,185枚)	B	<p>通勤活用の人にはほぼICカードが浸透している。乗降が潤滑になった。</p> <p>カードの利用割合などを懇話会にご報告願いたい。</p>	<p>IC定期券の運用開始や市の助成制度での活用などにより、利用が増加しているなか、乗降がスムーズになっており、定時運行にも非常に効果的であると認識しております。</p> <p>なお、令和2年度の収益ベースでのICカードの利用状況は、定期外、定期を合わせ約4億2千万円となっており、運輸収益全体の約70%となっております。</p>
		③ 乗客需要 に見合った 適切な運行 本数の確保	乗客需要の調査を実施したほか、状況に応じた増車運行を実施するなど、適切な運行体制の確保に努めました。	B	<p>夜間の乗車率は目を覆うばかりですが、市民の足としての信頼を維持し、昼間の乗客を確保するためにも、夜間の運行は維持すべきではないでしょうか。</p> <p>ODデータ等の活用により改善されてきているとはいえ、まだ乗車率の低い車両が多いように感じます。例えば通勤時間帯以外は、現在の6・7分間隔をもう少し開け、ダイヤに柔軟性をもたせることで、大型イベント開催時等は増便対応しやすいうようにしてはどうかと思います。</p>	<p>夜間の乗車率につきましては、IC・ODデータの分析結果から一定の利用動向は把握しているものの、現在は新型コロナウイルス感染症の影響により利用が大きく落ち込んでいるため、数年間のデータを蓄積し、効率的な運行に努めているところですが、今後の需要動向も見定めながらダイヤの検討材料としたいと考えております。</p>
		④ 料金体系 についての 調査研究	乗り継ぎ割引制度を導入したほか、IC定期券導入へ向けて、割引率や期間などの見直しについて検討を進めました。	B	<p>色々な挑戦や工夫をしていることは評価に値する。</p>	<p>料金体系の見直しにつきましては、引き続き利用動向調査を行い検討を進めるほか、利用者ニーズの把握に努めてまいります。</p>
		⑤ 交通機関 相互の 連携強化	函館バスと連携しICAS-nimocaカードを導入し、乗り継ぎ割引制度を拡充しました。	B	<p>あらゆる公共交通機関との連携が始まっているが自転車を乗車させることは他の地域でも始まっているので条件付きでいいので、今後検討してほしい。</p>	<p>自転車の持ち込みに関しては、導入の是非について課題等もありますことから、今後も他の事業者の取り組み状況等を注視してまいります。</p>

## 交通事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン 該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R2)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
3 まちや地域 への貢献	(1) 地域社会 への貢献 (P32)	① 地域を支える 取り組みの 推進	地域のイベントなどに協力した増車運行を実施したほか、中心市街地活性化事業により、松風町、千代台の停留場を改良するなど地域を支える取り組みを進めました。	B	車体広告についてガイドラインの見直しをしたのは賛成するところ。最近の車体広告は街と合っていてよくなっていることを写真の撮影の際に実感したばかりだった。  車体広告デザインについて景観に配慮した取り組みを進めていることは、国際観光都市としてふさわしい取り組みであり一層、促進してほしいと思います。一方、非広告車両の530号は函館のイメージとマッチし乗る人にも、見る人にもインパクトがあり、将来的には、はいから号のように観光資源としても活用できるのではないかと思います。	車体広告のデザインにつきましては、ガイドラインを見直したところであり、広告車両が函館の街並みに合うよう、引き続き取り組んでまいります。 また、530号などの古い車両に関しては観光客にも人気があり、非広告車両としているところですが、今後も引き続き運行できるような車両の維持管理に努めてまいります。
		② 人にやさしい 公共交通へ 向けた取り組 みの推進	超低床車両を導入したほか、安全地帯へのスロープ設置、停留場をバリアフリー対応に改良するなど、人にやさしい公共交通へ向けた取り組みを進めました。	B	高齢化が進む中でバリアフリーやユニバーサルな取り組みは常に意識向上を図らなければならないところなので、今後の取り組みに期待したい。	人にやさしい公共交通につきましては、引き続き、国や市の一般会計からの補助金を活用しながら、車両や安全地帯のユニバーサルデザイン化への取り組みを推進してまいります。
		③ 環境負荷の 低減	エネルギー効率の良い車両を導入したほか、ノーマイカーデーなどの啓発活動を実施するなど、環境負荷の低減に努めました。	B	利用者を向上させることが環境にいいことに繋がっているので、ここを大きく広報していくのがいいと思う。	環境負荷の低減につきましては世界的な課題でもあり、これまでの取り組みを今後も継続しながら、路面電車は環境に優しい公共交通機関であることについて積極的に広報し、利用促進に努めてまいります。
4 経営基盤の 強化	(1) 収益力の 向上 (P33)	① 市電の 利用促進	旅行代理店への営業を行ったほか、車内放送の多言語化の拡充や利用促進に係るチラシを各戸に配付、新しい乗車券の販売試行や新たな販売方法の開発などの利用促進に向けた取り組みを進めました。	B	交流人口の拡大が重要になるが、そのほか、学校行事での活用やイベント団体での活用は経験してとてもよかった。フットパスとの連携は体験したが、自転車との連携を試乗してみたい。	利用者ニーズに合った乗車券の企画や学校行事での活用を積極的にPRするなど、今後も引き続き利用促進に努めてまいります。 なお、自転車の持ち込みに関しては、今後も他の事業者の取り組み状況を注視してまいります。

# 交通事業経営ビジョンにおける主要施策の取り組み状況と評価

基本方針	施策目標 (経営ビジョン 該当頁)	主要施策	これまでの取り組み状況 (H29～R2)	評価	これまでの取り組みや今後の進め方に対するご意見	ご意見に対する企業局の考え方
4 経営基盤の強化	(1) 収益力の向上 (P33)	② 広告料収入の確保	広告料金について車体広告の割引制度の見直しを行ったほか、意匠許諾を行うなど、収入の確保とイメージアップに向けた取り組みを進めました。	B	模型の販売やイベントの開催などの企画は評価できると存じますが、コロナ禍の需要の蒸発をどう乗り切るか、危機意識を持って存続を賭けた長期ビジョンを再構築する必要があります。	収益力の向上対策といたしましては、これまでも広告料金の割引制度の見直しなどを行い収入確保に努めてまいりましたが、コロナ禍で落ち込んだ需要の回復動向を慎重に見定めながら、今後の事業の各施策について検討してまいります。
	(2) 経営の効率化 (P34)	② 効率的な組織づくり	他都市の民間への委託内容を調査したほか、各課の業務分析の実施など、効率的な組織体制の構築に努めました。	B	公共交通として、コロナ禍の中でも種々の感染対策を施した上で大きな支障なく、運航を継続できたこと自体が大きな成果だったと思います。ポストコロナを見据え、技術の継承など人材への投資も重要であり、効率的な組織運営を進めてほしいと思います。	今後、事業継続していくうえで、技術の継承、人材の育成は喫緊の課題と認識しており、厳しい経営状況のなかでも確実な組織運営が可能となるよう努めてまいります。
		抜本的な経営基盤の強化策について				<p>現下のコロナ禍の影響から、極めて経営的にマイナスな状況が続いています。存続の危機にある、という状況認識を共有した上で、抜本的な経営基盤の強化策を議論すべきだと思います。</p> <p>廃線もしくは、運用コストの低い別途の公共交通システムへの転換など、技術的に難しい課題も避けずに2060年に概ね現在の人口の半分となる事を踏まえた対処方法について具体的な項目を上げて検討を行う必要があります。</p> <p>今後の経営ビジョンの策定の基調は、ユーザー数の激減を前提とした上で考えていく必要があると思うからです。</p> <p>議論のたたき台になる、項目の洗い出しを早急にする必要があります。</p> <p>こうした課題への取り組みには、自治体の施策立案との関連性が特に問われます。</p> <p>函館市の地域を支える主要産業である「観光」振興と、コンパクトシティをスムーズに実現する都市計画施策の実現を考慮すると、交通事業に対する大幅な財政支援という大胆な財政支出という選択を自治体を選択する場面も考えなくてはなりません。</p> <p>議論の過程で、経営の遂行が難しいという判断が生ずれば、一定のユーザーの存在を無視できませんので、代替の公共交通システムについても検討する局面も出てくると思います。</p>

A : 完了した・計画を上回っている

B : 概ね計画どおりに進んでいる

C : 計画を下回っている

D : 著しく計画を下回っている